

IR3S・WISPJ マクロ班・ジャーナリズム班・第6回合同研究会・議事録

日時：2009年10月26日（月）17:00-18:15
会場：19号館・アジア太平洋研究科・7階・応接室
出席（敬称略）：松岡（主査）、吉田、太田、瀬川、若田部、黒川
欠席（敬称略）：中村、栗田、上野、長岡

1. 次年度以降の WISPJ のあり方について

（1）今後の IR3S について

- ・吉田先生：10/9「平成21年度第1回協力機関打ち合わせ」結果について
- ・10/23：堀口副総長と武内・副機構長、住・TIGS 統括ディレクターとの懇談（at モンゴル）

今後については、吉田先生から堀口先生に SSC（サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム）定款（案）などを渡し、本部で検討する体制を作る。また、1月総括シンポの件も含め、WISPJ 全体の運営委員会を開催する。

（2）研究院の重点領域研究の募集について

早稲田大学・研究院の重点領域研究の第1期募集が開始された（添付の公募要領参照）。我々の要求していたサステイナビリティについては、第2期の「持続性のための政策・産業・ジャーナリズム」として2010年1月下旬に公募開始、2010年6月研究事業スタートの予定。

2. 2010年1月28日（木）開催予定の WISPJ シンポの企画について

（1）テーマと内容：企画書の作成

- ・基本テーマ案：「なぜ京都議定書以降の地球温暖化対策は進んでいないのか？」（要検討）
- ・趣旨：1997年の京都議定書以降の日本の気候政策は、日本社会に対しても、国際社会に対しても明確なメッセージを発することなく、「迷走」を続けている。こうした要因としては、国内経済の低迷、内向き思考の日本社会の動向、政治的リーダーシップの欠如などが考えられる。こうした気候政策における「迷走」は日本だけでなく、世界全体についても多かれ少なかれ、当てはまるものと考え、特に日本の気候政策については深刻な状況にある。

今、必要なのは、気候政策の決定・実施における国内的・国際的（EU・アメリカなどの動向、中国・インドなどの途上国の動向）な政治経済学的メカニズムを明らかにすることであり、効果的な政策選択へ向けた制度設計のあり方を研究し、グローバルなサステイナビリティのあり方を提案し、広く社会に情報発信していくことであるとする。

こうした観点から、早稲田大学サステイナビリティ学研究推進本部（IR3S/WISPJ）は「気候政策の政治的意思決定とジャーナリズムの役割」をテーマに、3年間の研究活動を行ってきた。本シンポジウム「なぜ京都議定書以降の地球温暖化対策は進んでいないのか？」は、世界の中での日本の気候政策の問題点をサステイナビリティ学の観点から検証し、気候政策における大学の役割、気候ジャーナリズムの役割、大学とジャーナリズムとの連携の進め方などについて議論する。

*民主党政権で1990年比25%削減が表明されるなど、日本の気候政策をめぐる状況が大きく変わりつつあり、こうした「日本の政権交代と世界の気候政策」の今後を考える方向へシンポの趣旨を設定することも一案では。要検討

- ・イギリス大使館 or ドイツ大使館の気候変動担当官（太田先生、中村先生）
- ・石敏俊教授（環境経済、中国のミティゲーション政策の専門家）を招聘（松岡）。
- ・マスコミ関係者、新政権関係者：日経・滝論説委員（瀬川先生）
- ・基調講演者：10/1に武内先生（東大）へkeynote依頼、10月末まで待つて欲しいとの返事。

（2）各セッションの具体化（再検討！）

セッション1：気候政策と政治経済学（→政権交代と気候政策？）：

座長・若田部、報告者・コメント：石（中国科学院）、X、X
（パネリストに女性を加えるべきとの意見あり。）

セッション1では、日本と世界の気候政策の動向を、COP15（2009/12、コペンハーゲン）の評価を行いつつ、整理する。主に、①今後の気候政策のあり方、②気候政策のための国際環境ガバナンスのあり方、③日本の役割、という3点について議論する

セッション2：気候政策とジャーナリズムの役割、大学とジャーナリズムとの連携構築：

座長・松岡、報告者・コメント：瀬川、滝（日経論説委員）、X
（パネリストに女性を加えるべきとの意見あり。）

セッション2では、S1の議論を踏まえ、①気候変動、気候政策、国際交渉などのマスコミ報道のあり方を検証し、②日本の環境ジャーナリズムの今後を議論し、③大学における研究教育とマスコミ、ジャーナリズムとの協力・連携のあり方を探る。

（3）会場・タイムテーブルについて

早稲田大学・小野記念講堂

10:30-10:40：開会挨拶（堀口副総長）

10:40-10:50：WISPJの報告（吉田先生）

10:50-11:40：基調講演・質疑

11:40-13:00：昼休み

13:00-14:40：S1

14:40-15:00：休憩

15:00-16:40：S2

16:40-16:50：まとめ

16:50-17:00：閉会挨拶

（4）今後の予定

・11月中旬にはシンポ情報をHPなどでオープンに出来るようにする（11/18の研究会で決定する。それまで、松岡、瀬川先生、若田部先生で調整を行う。）。
決定する。それまで、松岡、瀬川先生、若田部先生で調整を行う。。

3. 最終年度の「研究まとめ」について

（1）基本方針

IR3S/WISPJマクロ班+ジャーナリズム班の3年間の研究活動の「まとめ」として『気候政策の政治経済学とジャーナリズムの役割』（仮）といった報告書を、2010年3月にまとめ、その後のリライトを経て、2010年夏前ごろには入稿、年末ごろには書籍として出版する。

(2) 目次案の決定

(総論)

- ・松岡：①気候政策の政治経済学：気候政策の設計と選択（全体の総論）
全体の総論として、気候変動問題および気候政策を政治経済学的観点から論じる基本的な視点や方法を論じる。気候変動問題の歴史的推移、気候変動問題の全体的構造、気候変動の他の環境問題と比較した特徴などを論じる。また、気候政策の設計と選択における評価基準や考え方をスターン・レビューやIPCC/AR4などの主要な報告の分析から明らかにする。

(第1部：国際関係)

- ・松岡：②国際気候ガバナンスにおける先進国と途上国（松岡＋太田＋中村の連携）
国際環境ガバナンスが有効に機能する要因や条件という視点から、国際気候ガバナンスの分析を行う。特に先進国と途上国という非常に大きな格差をかかえる国際関係の中で、「共通だが差異ある責任」をどのように具体化すればよいかを考える。
- ・太田：①気候変動の国際的交渉史
②国際気候ガバナンスの形成と展開：COP、G8、G20、MEF
- ・中村：国際気候ガバナンスの形成とEUの役割：イギリスを中心に

(第2部：日本の政策過程と制度設計)

- ・吉田：気候政策の行政過程（主に国内事情）の研究（吉田＋若田部の連携）
- ・若田部：気候政策の政策決定過程の分析？
- ・黒川：気候政策の制度設計（日本および排出権取引制度の国際的展開）

(第3部：ジャーナリズムの役割)

- ・瀬川：①気候政策とジャーナリズムの役割（実態と今後の方向）
②新聞の社説分析（日本とアメリカ）
- ・栗田：気候変動報道と市民意識の形成

4. インタビュー調査について

(1) インタビュー調査について

- ・毎日新聞・田中記者：2009年4月22日（水）実施
- ・環境省・森谷審議官：2009年5月15日（木）実施
- ・経産省：有馬審議官：2009年6月17日（水）実施
- ・日経：塩谷論説委員：2009年7月23日（木）実施

(2) インタビュー調査の「まとめ」

- ・ジャーナリズム・インタビューのまとめ：瀬川先生
- ・行政インタビューのまとめ：吉田先生（リライトお願いします。）
- ・今後の方針について：4件のインタビューにつき、調査レポートとして「まとめ」を行い（吉田先生（済み）、瀬川先生）、HPに掲載する。

(3) 今後の調査計画について

- ・民主党政権の成立により、日本の気候政策も大きく変化している。かかる「政権交代と気候政策の変革」の過程における「政治的意思決定とジャーナリズム」をめぐるインタビュー調査を検討する。

5. その他

(1) WISPJ の HP の更新。

インタビュー調査まとめ、モンゴル国際会議記録、マクロ班 2008 年度報告書、マクロ班 +ジャーナリズム班の合同研究会記録、1/28 シンポの案内

(2) 次回の研究会（第 7 回合同研究会）

11 月 18 日（水）18:30-20:00、19 号館 7F・応接室（予）

- ・1/28 シンポの企画・内容の決定
- ・今年度のまとめに向けた研究報告
- ・WISPJ の後継体制について
- ・その他